

委員会レポート 文教厚生



吉本委員 森委員 今村副委員長 三上委員長 長澤委員 貝原委員 荒木委員

新体制で スタート

四月の改選より、議員定数を二名削減し、十四名での新たなスタートをきりました。

委員会も三委員会制から二委員会制へと替わりました。

文教厚生委員会では、三上 政義 委員長
今村 桂子 副委員長
荒木 敏光 委員
吉本 實 委員
貝原 雅俊 委員
長澤 誠司 委員
森 勝己 委員
の七名のメンバーにより構成されることになり、主に子ども教育課・社会教育課・福祉課・住民課・保健環境課に属する事項について審議・審査をしていきます。

町民皆様の負託にこたえ、委員会への信頼を築いていけるように、これからもそれぞれがそれぞれの役割を果たし、一致団結して活動していきます。

請願

国の療養病床の廃止・削減計画の中止等の意見書採択等を求める意見書提出の請願

地域住民が、いつでもどこでも安心して医療や介護を受けられるようにするため、左記の事項を請願します。

記

一、療養病床の削減計画を中止するよう求める意見書を採択し、政府に提出すること。
二、介護保険事業計画を見直し、介護保険事業を充実させるよう求める意見書を採択し、県に提出すること。

三、地域住民が安心して暮らせるように、医療・介護・福祉制度や施設等の基盤を充実させること。

請願者
粕屋地区社会保障
推進協議会
会長 三野原 厚
紹介議員 合屋 伸好
(継続審査)
更なる調査を必要とし、継続審査としました。

後期高齢者の命と健康を守るため後期高齢者医療制度の充実を求める意見書提出の請願

後期高齢者の命と健康を守り充実した医療制度を確保するため、左記の項目について厚生労働省と福岡県後期高齢者医療広域連合に対して意見書を提出していただきますよう請願します。

記

一、高齢者の保険料の負担軽減のために、国の財政負担割合を引き上げてください。

社会福祉協議会と 懇談会を実施

七月十三日にボランティアセンター研修室において、社会福祉協議会との懇談会を実施しました。

社会福祉協議会より平成十九年度事業計画について、パワーポイントを使っての詳しい説明を受けた後、お互いの意見交換・質疑等を行ない有意義な懇談会となりました。

問 町受託事業と目的は

答 家族介護者交流事業
(予算：四十二万円)
在宅介護者の心身のリフレッシュ並びにお互いの交流を図ります。
レクリエーション・インストラクター養成講座
(予算：百二十万円)
小地域ボランティアチームの活性化と指導者人材の育成
公共施設管理(福祉センター・ボランティアセンター)運営事業
(予算：二千九百七十六万二千円)
浴場サービス事業
「公衆浴場はたる湯」で「町民」に対して「憩いの場」を提供します。
車椅子貸付事業

問 重点項目事業は

答 小地域ボランティアチームの後方支援
介護保険事業の健全運営
福祉工房「すえのパン」事業の健全運営と就労者の社会的自立
共生のまちづくり推進事業の再検討です。



懇談会の様子(ボランティアセンター研修室)

車椅子が短期間必要な方に貸付を行わない、社会参加を促し地域福祉の推進を図ります。
チャイルドシート貸付事業(上限三ヶ月)
保護者の経済的負担の軽減と、交通安全意識の向上を促し、チャイルドシートの普及を図ります。

知的障害者就労支援のため、企業性を

問 期待される事業は

答 小地域(行政区単位)において、ボランティア養成講座を開催後、自主ボランティアチームを組織し、学習会の開催を実施しています。
十九区において、「自発的なボランティア活動」が推進されています。
自主ボランティアチームには活動助成金を交付しており、須恵町社会福祉協議会独自の取り組みに、各地から多数の視察を受け入れている事業です。

二、国民年金受給者などの低所得者に対しては保険料および窓口一部負担金の減免を行なうなど十分な配慮を行ない、資格証明書の発行は極力抑えるようにしてください。
三、広域連合の運営は後期高齢者の意思を十分に反映させ、透明性の確保に努め、また情報公開請求の際には速やかな公開を行なうてください。

請願者
粕屋地区社会保障
推進協議会
会長 三野原 厚
紹介議員 合屋 伸好

(賛成多数で可決)
賛成：十一 反対：二
政府関係機関に送付しました。